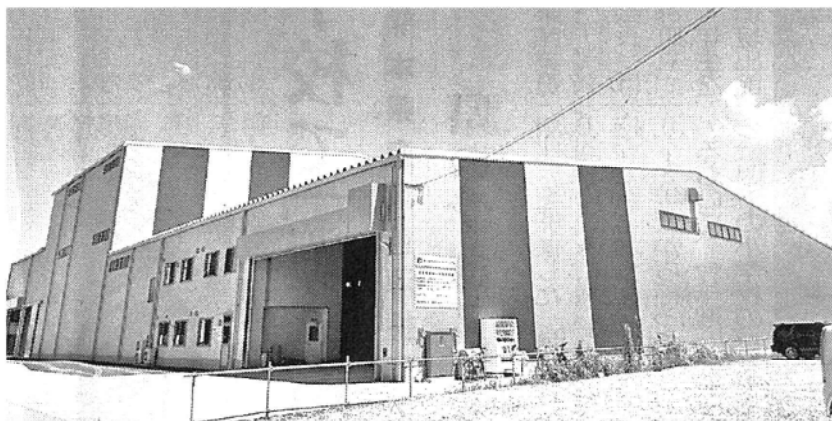


廃石膏ボ、100%リサイクルさらに

関東工場を開設

トクヤマ・チヨダジプサム



年間8万t前後リサイクルできる関東工場

廃石膏ボードの100%リサイクル事業を進めるトクヤマ・チヨダジプサム（本社・三重県川越町、世良田浩二社長）は、さらなるリサイクルの推進を目指し7月に関東工場（千葉県袖ヶ浦市、0438・62・3000）を開設した。同社は2013年に三重県にて独自技術による廃石膏ボードの100

%リサイクルを開始、現在も順調に稼働している。三重県での実績を生かし、より多くの石膏ボードリサイクルを進めるため、関東での事業に乗り出した。関東工場は24時間稼働で1日240t、年間8万t前後の廃石膏の80%がリサイクル可能となる。廃石膏ボードからの石膏粉は、一次粒子の大きさが5μm以下の針状結晶が凝集した形状をしており、多くの空隙があることがリサイクルしにくい理由となっている。同社の技術はこの構造を改質させ、一次粒子の大きさを20μm以上にし、空隙のない結晶構造にすることでリサイクル可能な石膏粉が製造できる。

工場に搬入された廃石膏ボードは、粗破碎された後トロンメルや手選別などで異物が除去され、紙と石膏に分離される。石膏は粉碎された後に焼成され、粒度調整される。その後晶析工程に入り、結晶構造が改質され、新たにリサイクル可能な石膏粉として生まれ変わる。また紙は製紙工場でリサイクルされる。基本的には、三重県の工場と同じシステムであるが、粗破碎が

ら破碎までのラインが2本あり、万が一のトラブルの際も停止させる必要がない体制を整えている。世良田社長は「石膏ボードのリサイクル率はまだ高いとは言えない。リサイクル率を上げるには、ボードにボンドのリサイクルを増加させることが重要だ。関東においても石膏の100%リサイクルを定着させていきたい」と話した。